

開拓から発展へ

昨年の十二月に、区民センターなどで「白石開拓百三十年記念写真展」を開催したところ、多くの区民にご来場いただき好評を博しました。今月号では、写真展を見逃した方のために、誌上で歴史写真を紹介します。



かんりんまる
咸臨丸（明治4年）

戊辰戦争に敗れた仙台藩片倉小十郎の家臣たちは北海道に新天地を求め、かつて勝海舟らに乗せ太平洋を横断した咸臨丸などに乗船し故郷を後にした。それは新しい白石の始まりでもあった。写真は松島湾沖の咸臨丸。



りんが
鈴木煉瓦製造場（明治19年頃）

明治17年、白石村北郷（現在の平和通6丁目付近）に鈴木佐兵衛が作った鈴木煉瓦製造場産のレンガは北海道庁旧本庁舎や東京駅などに使用され、白石、ひいては札幌の街づくりに大きく貢献するものだった。



白石仮乗降場（明治15年頃）

幌内鉄道の開通に伴い、白石には現在のJR白石駅の100mほど厚別寄りに仮乗降場が設けられた。必要ときにフラグ（旗）を掲げて汽車を止め、客の乗り降りや貨物の荷下ろしを行うので、フラグ・ステーションとも呼ばれた。

年表

西暦	年号	月	主な出来事
一八六八	明治元年	九	仙台藩が戊辰戦争に敗れる
六九	二	六	片倉家臣団が傑山寺に集り北海道移住を決議する
七一	四	九	片倉家臣団六百余人が咸臨丸で庚子丸で宮城県の松島湾寒風沢を出発。咸臨丸が現本古内沖で座礁する
七二	五	三	最月寒に入植し、短期間で小屋掛けを終える。それを視察した岩村判官が讃え、「白石村」と命名する
七三	六	五	善俗堂（現白石小学校）を建てる
七九	一	六	本府開削（現豊平神社、東札幌）国道12号、白石神社の5.1（km）
八〇	一	三	から豊平川沿いに移住し新白石村（同年九月に上白石村となる）となる
八二	一	五	岩手県の新堀岩松が北郷に入植
八三	一	六	豊平、白石、上白石、月寒、平岸の五ヶ村の戸長役場が上白石十四番地に置かれる
八四	一	七	白石本通墓地開設
八五	一	八	村学舎（善俗堂）が公立白石学校となる
八六	一	九	豊平川鉄橋完成
八七	二	〇	幌内鉄道が開通。白石には仮停車場が設置されたが翌16年に廃止
八八	一	七	岩井沢七兵衛が南郷に入植
八九	一	八	イナゴの大群来襲
九〇	一	九	白石村中央と厚別の湿地で水田試作に成功する
九一	一	〇	信州信濃（長野県）から八戸が厚別に入植
九二	一	一	鈴木煉瓦製造場ができる
九三	一	二	元白石村貫属らが、ようやく土族籍に編入される
九四	一	三	大谷地、野津幌、下野津幌の開拓が始まる
九五	一	四	旧華族・菊亭修季が上白石村で農園を始める
九六	一	五	白石村18戸、人口86人となる